

令和5年度(2023年度)
吹田市立図書館点検・評価報告書

令和6年(2024年)12月25日

吹 田 市 立 図 書 館

この点検・評価報告書は、図書館法(昭和25年4月30日法律第118号)第7条の3に基づき、吹田市立図書館の運営の状況について自己評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価をいただいて作成し公表するものです。

吹田市立図書館は、「吹田市立図書館サービス基本計画(令和5年度(2023年度)ー令和14年度(2032年度)」において、図書館が目指す3つの基本目標と、その目標を具体化するための個別の図書館サービス事業として9つのサービス方針を掲げています。

この基本計画に基づいて設定した「令和5年度 吹田市立図書館の目標」に対し、自己評価と外部評価を行います。

*令和5年度(2023年度)の吹田市立図書館の活動については、「吹田市の図書館活動<令和5年度(2023年度)統計>」として、図書館ホームページで公表しています。

吹田市立図書館の3つの基本目標

基本目標 1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも役立つ図書館を目指します。

基本目標 2 生涯学習を支援して、人生を豊かにする図書館を目指します。

基本目標 3 子育て支援や学校との連携を通して、子供の健やかな成長に役立つ図書館を目指します。

指標の評価基準について

【数値目標】

A	数値目標を達成	100%以上
B	数値目標をやや下回った	70%~100%未満
C	改善が必要	70%未満

※数値に関する指標について、目標が「経年比増」とあるものは、令和4年度の実績値を100とし、令和5年度実績値が100%以上のものをA、70%~100%未満のものはB、70%未満であればCとします。

【実施目標】

A	達成	目標に対し順調に進めることができた
B	一部達成	目標の一部のみ進めることができた
C	未達成	取り組みはしたものの目標を進めることができなかった

基本目標1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも役立つ図書館を目指します。

サービス方針1 資料と情報の提供

【令和5年度目標の取組み状況】

(目標)

- ◎職員のレファレンス技術向上にむけての育成ツールを作成します。
- ◎児童書の年齢別リストの改訂を行います。
- ◎地域資料のデジタル化をすすめ、資料閲覧における利便性の向上を図ると合わせ、ホームページやメールマガジン、SNSでの資料紹介を通して地域の情報発信を行います。
- ◎限られた書庫の収納スペースを有効に活用するために、各館の特色に応じた資料の保存方針を整理し、蔵書の適正化を図ります。

- ・職員のレファレンス技術向上にむけ、司書として知っておくべきツールや参考図書、インターネットサイトなどを自身で確認・把握するための「参考業務チェックリスト」を作成しました。
- ・レファレンス受付件数は、目標値を達成しました。
- ・「子育て応援ブックリスト」と、「ヤングアダルトのためのリスト」を改訂しました。
- ・メールマガジンや SNS 等を利用して地域資料の情報発信を行いました。地域資料のデジタル化については検討を進めていますが、具体的な取組みには至らず、今後の課題です。
- ・適正な蔵書管理のため、洋書などの多文化資料は千里図書館、医療関係の資料は健都ライブラリーに集めるなど、各館の特色に応じた保存を行うほか、収納能力の限界に近づいている中央図書館や千里山・佐井寺図書館の書庫においては、重複する資料の除籍を進めました。

(指標)レファレンス受付件数			
令和3年度 (策定時)	令和5年度		評価
	目標	実績	
10,455 件	経年比増 (令和4年度実績: 10,421 件)	12,839 件	A

※利用者、他自治体、行政、学校などから受けた質問の総件数。

【図書館協議会の意見】

- ◎レファレンス技術向上に向けて行われた「参考業務チェックリスト」の作成などの取組が、レファレンス受付件数の目標値達成につながっていると思われるのでよいと考えます。
- ◎業務チェックリスト、育成ツールの作成、さらに進めていくことを期待します。
- ◎実際に利用した際には、レファレンスや資料の取り寄せなどの対応にも満足しています。ホームページを見る機会もありますが、メルマガが面白いと思います。もっと宣伝すべきです。
- ◎レファレンスサービスの実績があがっており、大変良いことだと思います。
- ◎レファレンス受付件数が目標値を達成したことは、評価できると思います。今後とも、市民が気軽に本の相談ができる体制を整えてください。
- ◎国会レファレンス協同データベースの登録に関して、閲覧数が基準に達して表彰されたことはメールマガジンなどで発信されていたでしょうか。レファレンスについて、市民に広く知ってもらおう活動を今後も続けてください。
- ◎ブックリストの改訂を着実に進めているようで、よかったです。特に「子育て応援ブックリスト」は、絵本が多くてどれを選んだらいいか迷う保護者の方々への手助けになると思います。
- ◎地域資料のデジタル化については、先行実施している自治体が多数ありますので、参考にしながら検討を進めてください。
- ◎地域資料の発信をしていただけると学校での地域の調べ学習にも活用できるかと思いますので、次年度での実現をお願いします。
- ◎書庫の収納スペースの活用について努力されています。古い本が多い館は、入れ替えや他の図書館から取り寄せなど検討してください。

サービス方針2 バリアフリー読書支援サービス

【令和5年度目標の取組み状況】

(目標)

- ◎利用者の要望や意見をサービス改善に役立てるため、「障がい者サービス利用者懇談会」を引き続き開催します。
- ◎市立図書館で製作したアクセシブルな書籍等(録音図書、点字図書、さわる絵本)を全国で利用できるよう、サピエ図書館と国立国会図書館へデータ提供を行います。また、それらの資料を製作する音訳者、点訳者の養成講座を開催します。
- ◎対面朗読サービスの利便性の向上を図るため、遠隔コミュニケーションアプリ(Zoom)の活用をすすめます。
- ◎市立図書館が提供しているサービスについての認知度拡大のため、図書館ホームページやメールマガジン、案内リーフレット、声の市報すいた図書館だよりなどのコンテンツを充実させます。また、点字図書館、サピエ図書館及び国立国会図書館についても紹介します。
- ◎多様な読書方法への興味や関心を抱ききっかけづくりとして、体験型イベント「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界 in すいた」を開催します。

- ・「障がい者サービス利用者懇談会」では、利用者 82 名と電話で対話しました。サービスの内容を紹介したり、利用者の要望を聞き取ったりすることで、サービス改善に役立てることができました。また、当事者や関係者への広報活動の強化を求める意見も少なからずありました。
- ・令和5年度は、音声デージー図書 78 点、点字図書 30 点、さわる絵本4点をサピエ図書館や国立国会図書館にデータ提供を行いました。
- ・Zoom を使った対面朗読サービス利用者は延べ 22 名で定期利用されている方がいます。引き続き利用の拡大が課題です。
- ・広報活動では、「障がい者サービス利用のご案内」を改訂しました。また、「吹田市読書バリアフリー計画」策定を受けて、当事者や支援者の方々を対象に図書館の障がい者サービスについて担当職員が講演を行いました。図書館ホームページの充実は着手に至りませんでした。次年度引き続き取り組みます。
- ・「吹田市読書バリアフリー計画」に基づき、第1回「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界 in すいた」を多くのボランティアの協力を得、開催しました。

(指標)アクセシブルな書籍等の年間貸出点数			
令和3年度 (策定時)	令和5年度		評価
	目標	実績	
31,803 件	経年比増 (令和4年度実績: 32,697 件)	34,009 件	A

※デジジー図書、テープ図書、点訳図書、さわる絵本のダウンロード数及び総貸出数。

【図書館協議会の意見】

- ◎吹田市立図書館のバリアフリー読書支援サービスは、誇らしいと思います。障がいのある人も、ない人も参加できる体験は、参加したいと思う取組です。どこの図書館も入口は広いのですが、その付近で人がかたまっているときは危険を感じました。注意書きがあるといいと思いました。障がいの有無に関わらず、安心して使える施設となるよう努めてください。
- ◎利用者の要望を聞き取り、サービス改善にむけて取り組んでいてとても評価できます。
- ◎「障がい者サービス利用者懇談会」については、82名の方から要望が聞けたのはよかったのですが、顔を合わせる貴重な機会として、対面での開催を再開するよう希望します。また、要望については、進捗状況を利用者に報告できるといいと思います。
- ◎バリアフリーサービスは聴覚障がい者も常に対象に入れていただきたいと考えています。障がい者サービス利用者懇談会にも聴覚障がい者対象に入れてはどうか。
- ◎Zoom を使ったの対面朗読サービスが実現し、利用が進んでいることは評価できます。
- ◎図書館ホームページについては、今後の充実に期待しています。
- ◎市民全体に活動を知ってもらう機会をいっそう増やすことが、よりいっそう充実したサービスの実現につながると思います。
- ◎8月の体験イベントはとても良かった。幼児対象にさわる絵本、パネルシアターを午前中に取り入れたのは良かった。
- ◎アクセシブルな書籍等の年間貸出点数が目標値を上回る結果となっているのは評価できます。広報活動のさらなる強化に注目しています。

サービス方針3 持続可能な運営

【令和5年度目標の取組み状況】

(目標)

- ◎図書館サービスを取り巻く環境変化や新たな課題に対応しつつ、キャリア形成の段階に応じて専門的能力を発揮できるよう、人材育成の計画を作成します。
- ◎施設管理や窓口委託業務について、より持続可能な運営を行うため、同一業務を複数館で一括で委託することを視野に入れ、業務の見直しを進めます。
- ◎効果的・効率的な運営を推進するため、ICTを活用したサービス提供の検討を進めると合わせて、令和8年度に予定する図書館電算システムの更新に向けた準備を進めます。

- ・人材育成の計画作成の一環として、司書の専門研修の受講基準をまとめました。また、吹田市の司書として、経験年数に応じて身につけておく知識、スキルについて整理をしました。
- ・施設管理について、同一業務を複数館で一括で委託できるように準備を進めました。窓口業務については、業務内容の整理を行いました。次年度は、引き続き業務の見直しを進めます。
- ・令和6年(2024年)1月から、書店や出版社等に注文している図書について、図書館のホームページでの検索や予約ができるように、図書館電算システムの環境整備を行いました。
- ・次期図書館電算システム構築に向けて、要件の整理を行い準備を進めました。

(指標)ICTの活用		
令和5年度		評価
目標	実績	
次期図書館電算システム構築案の作成	次期図書館電算システム構築案について要件整理	A

【図書館協議会の意見】

- ◎施設管理や窓口業務の委託に関しては、持続可能な運営のみではなく、図書館として適切な運営がなされているのかについても注意を払ってもらえればと思います。
- ◎窓口委託業務について、図書館の職員と事業者スタッフのどちらに声をかけてよいのか迷うことがあります。
- ◎施設管理について、同一業務を複数館で一括委託するようになると、受託できる業者が大手に限られるのではないかと危惧します。市内の業者を育成することにも配慮が必要ではないでしょうか。
- ◎注文中の図書にも予約ができるようになって、大変便利になりました。次期図書館電算システムにも期待します。

◎ICT を活用したサービスは今後必要不可欠になっていくと思います。サービス開始までにしっかり準備をして進めていただきたい。

◎電子書籍普及等の図書館サービスを取り巻く環境変化に適応できるよう、システム構築の準備が順調に進んでいると見受けられます。

基本目標2 生涯学習を支援して、人生を豊かにする図書館を目指します。

サービス方針4 利用促進

【令和5年度目標の取組み状況】

(目標)

- ◎新規サービスはもとより、図書館サービスの基本的な情報を利用者に周知するため、ホームページやSNSでわかりやすく紹介します。特に「利用登録方法」や「予約サービス」について重点的に取り組みます。
- ◎現在図書館を利用していない市民へ利用を促すため、図書館外でのPR活動や出前講座、講師派遣の取組を行います。
- ◎館内のデジタルサイネージを活用したり、サインや掲示案内を工夫したりすることで、効果的な情報発信を図ります。また、図書館が身近に感じられるような、図書館ホームページやSNSでの情報発信の方法を検討し、利用促進を図ります。

- ・ホームページやメールマガジン、SNSでの情報発信を継続して行いましたが、更なる取組が必要です。
- ・市民への利用促進については、10月に3日間、市役所庁舎ロビーにて利用登録会を実施しました。市民課の窓口前で開催し、図書館のPRにつなげました。
- ・図書館全体で、出前講座は2回、講師派遣は18回実施しました。
- ・館内のデジタルサイネージの活用については図書館行事の情報発信の他、他室課からの依頼に応じて、様々な情報発信を行いました。

(指標)市民の利用登録率			
令和3年度 (策定時)	令和5年度		評価
	目標	実績	
25.0%	27.4%	26.1%	B

【図書館協議会の意見】

- ◎多様なニーズに合わせ、情報発信の方法を検討していただきたいです。
- ◎デジタルサイネージを活用した情報発信は、視覚的にわかりやすくよいと思います。こまめな更新はたいへんだと思いますが頑張ってください。

◎利用のない市民に対しての、利用促進実施、とてもいいと思います。図書館に行ったことがない人が、ついでに立ち寄りカードを作ることで、図書館へ足を向けることに繋がります。市役所だけでなく、季節ごとに違う施設でも窓口が広げられるといいと思いました。メルマガの登録、もっと促すと、図書館をもっと身近に感じるきっかけになると思います。登録の仕方のガイドラインなどが、紙媒体でもあるといいと思います。

◎市役所庁舎ロビーでの出張利用登録会は、市民に図書館サービスを見える化する大変いい取組です。今後も継続して取り組んでください。

◎市民の利用登録率が指標になっていますが、現在図書館を使っている人の利用を促進することも大事なことでないでしょうか。貸出点数や市民一人当たりの貸出点数を目標に掲げることは、サービスを進める上で欠かせないことだと思います。

◎利用促進のためには、魅力的な図書館であることが大事だと思います。資料購入費が減額されていないのはいいのですが、図書の値段が上がっているのに、増額をお願いしたいです。

◎市民の利用登録率向上が急務だと考えます。図書館に行けば何かあると、全世代の市民に思ってもらえるような取組を期待します。

◎市民の利用登録率が目標値に到達しなかったのは残念でしたが、着実に増加しています。今後、新たな角度からのPR活動を展開されることを期待します。

サービス方針5 特色あるサービス

【令和5年度目標の取組み状況】

(目標)

(1) 健康・医療情報サービス

◎市民の健康増進をはかるため、健康・医療に関する講座を年2回以上開催します。

◎パスファインダーを新たに2件作成し更なる充実を図ります。

(2) 多文化サービス

◎吹田市に在住・在勤・在学の外国人を支援するため、類縁機関と連携し、外国人利用者の図書館見学会を年1回以上実施します。

(3) ビジネス支援サービス

◎市民の経済活動を活性化するため、ビジネスパーソンを対象とした講座を年1回以上開催します。

◎関係部署と連携を図り、ビジネス支援だよりを年1回以上発行します。

◎類縁機関と連携したビジネスサービスが展開できるよう、協議を進めます。

(4) 就労・就業支援サービス

◎市民の経済的活動を支援するため、資格取得の問題集や参考書、電子図書館の充実を図ります。

◎若者の社会参画や就労を支援するために、類縁機関と連携し、就労支援事業や各種講座に協力します。

(1) 健康・医療情報サービス

・健康・医療情報講座を健都ライブラリーで30回、千里図書館で1回開催しました。

・パスファインダーについては国立循環器病研究センター監修の「「減塩」を調べる方へ」、医薬基盤・健康・栄養研究所監修の「「腸内細菌(腸活)」を調べる方へ」を新たに作成しました。

(2) 多文化サービス

・千里図書館では、吹田市国際交流協会主催の日本語学習コース受講者の図書館見学を3回受け入れました。

(3) ビジネス支援サービス

・江坂図書館では、ビジネス講座「関西経済の現状と動向」(講師:財務省近畿財務局職員)を開催しました。

・地域経済振興室と連携し、ビジネス支援だより11号を発行しました。

・パスファインダー「「企業情報・業界動向」を調べる方へ」を新たに作成しました。

(4) 就労・就業支援サービス

- ・資格取得に関する図書や電子書籍を選書・購入し、充実に努めました。さんくす図書館のハロージョブコーナーにおいて、就労・就業に関するパンフレットを継続して設置しました。また、すいた電子図書館所蔵の、資格・検定に関する電子書籍の利用を呼びかけるPR 掲示を行いました。
- ・パスファインダー「「就職・資格」を調べる方へ」第3版を作成しました。
- ・JOB ナビすいた(吹田市在住・在学・在勤の方を対象にした就労支援センター)のセミナーやイベントのちらしを、各図書館内に設置しました。サービスの充実に図るため、関係機関との連携を進めることが課題です。

(指標)関係機関との連携(連携した企画の実施回数)		
令和5年度		評価
目標	実績	
4回/年	37回/年	A

※令和5年度実績内訳:健康医療情報サービス 31 回、多文化サービス5回、
ビジネス支援サービス 1 回

【図書館協議会の意見】

- ◎図書館は本の貸出、施設の利用だけでなく市民生活の向上に取り組んでいることをとても評価します。これからも見学会、企画の取組みに頑張ってください。
- ◎パスファインダーは、非常に有用なツールである反面、一般の方の認知度はそれほど高くないと思います。
- ◎パスファインダーの活用事例等について、インターネット等を活用して発信していくと良いかもしれません。
- ◎特色あるサービスがある図書館にはおもしろさを感じます。ただ、どの館がどのような特色なのかの周知がまだ不十分にも思えるので、そのあたりの取組もあるといいと考えます。
- ◎それぞれの図書館の強みを生かしてサービス提供している。
- ◎「(指標)関係機関との連携(連携した企画の実施回数)」については、目標(4回)と実績(37回)との乖離が大きいので、次期の目標設定時に同様の目標を設定される場合は、適切な目標数値となるよう留意してください。

(1) 健康・医療情報サービス

- ◎健康に関しては年代に関係なく関心のある方は多いと思います。魅力ある講座を定期的
に開催していただきたい。
- ◎具体的なタイトルでの医療・健康情報講座は、人気かと思います。

◎健都ライブラリーでの催しが盛んなところがよいと考えます。抽選になるものは回数を増やすなどの工夫も検討してください。

◎健都ライブラリーで健康に関する講座は良い取組だと思います。聴覚障がい者を対象に手話通訳、要約筆記があることが嬉しいです。

◎健康・医療情報講座に関しては、高齢者の利用が多いようですが、各図書館で若い人にも高齢者にも関係する健康に関する講座をもっと開催してほしいと思います。

(2) 多文化サービス

◎地域によるかも知れませんが、外国の方、特に子供のいる家族が多くなってきたと思います。それぞれの国の文化のこと、暮らしのことなどお話ししてもらえるような講座もあるとよいと思いました。

◎外国人利用者の図書館見学の受け入れは有意義なものと思われます。類縁機関だけでなく、広く受け入れられたらよりよいと考えます。

(3) ビジネス支援サービス

◎類縁機関と連携したビジネスサービスについては、ビジネス支援図書館推進協議会のホームページ等で公開されている情報や他の図書館による事例等を参考にしながら、具体化に向けた取り組みを進めてもらえればと思います。

◎ビジネス講座の開催など、多様なサービスの提供ができています。開催回数を増やすなどさらなる充実を図れるでしょう。

◎ビジネス支援や就労・就業支援については、市報すいたでもこういうサービスがあることをもっとアピールしてもよいかと思います。

(4) 就労・就業支援サービス

◎資格取得に関する書籍の充実に取り組んだ点は評価できます。PR掲示に加えて、広報をより充実させるとさらによいと考えます。

◎市報すいたでもこういうサービスあることをもっとアピールしてもよいかと思います。

サービス方針6 施設や地域との連携

【令和5年度目標の取組み状況】

(目標)

- ◎市内に所在する大学と連携し、図書館実習生の受入、及び大学図書館の紹介、留学生や司書課程受講者向けの図書館施設見学などを行います。
- ◎子育て世代や児童の利用を促すため、近隣の児童センターとの連携を深め、講座や行事を連携して行います。
- ◎司書の専門性や図書館の活用方法を広く知ってもらうため、吹田市生涯学習出前講座において、司書の専門知識を活かした講座や図書館の魅力をPRするメニューを提供します。
- ◎子育て世代や児童の利用を促すため、幼稚園や保育所、留守家庭児童育成室、児童会館・児童センターなど子供に係る施設や団体に対し、本に係る情報を提供します。また、講師派遣や出前講座などを行います。
- ◎吹田市内にある各施設の魅力を互いにPRするため、吹田市立博物館など市内施設と連携した企画を実施します。

- ・市内の大学から、図書館実習、インターンシップ及び図書館見学を受け入れました。
(6件115名)
- ・吹田市生涯学習出前講座(5件 136名)、講師派遣(9件 152名)を行いました。うち児童会館・児童センターは4件118名、保育所・幼稚園・認定こども園は3件 83名でした。引き続き、出前講座のPRを進め、利用の拡大を図ります。
- ・市内各施設との連携では、健都ライブラリーにおいて、吹田市立博物館学芸員を講師に迎え「大坂好みの日本画」を開催し、同館の秋季特別展の見どころを紹介しました。
- ・山田駅前図書館では、のびのび子育てプラザとの連携事業として、保護者が子供を預け、図書館でゆっくり本を読んだり選んだりできる「ひとりのびのび読書タイム」を引き続き行いました。(6回延べ84名)また、吹田市子ども・若者総合相談センター・「ぶらっとるーむ吹田」と連携し、社会とのつながりが少なくなっている若者の自立への機会となるよう、図書館でのボランティア体験による社会活動参加の支援を行っています。

(指標)講師派遣回数(目標回数10回/年に対する達成度)			
令和3年度 (策定時)	令和5年度		評価
	目標	実績	
20%	経年比増 (令和4年度実績:100%)	150%	A

【図書館協議会の意見】

◎講師派遣回数が目標を上回る結果となっているのでよいと考えます。多種多様な施設、世代との連携が見受けられます。

◎例えば中央図書館であれば大和大学など近隣の大学と連携できると思いますが、具体的にどんな連携が考えられるか知りたいです。(図書館ボランティアなど)

サービス方針7 市民との協働

【令和5年度目標の取組み状況】

(目標)

◎乳幼児サービスに関わるボランティア(0～3歳向け読み聞かせボランティア)の新規養成と技術向上のために、養成講座及びスキルアップ講座を継続して開催します。また、交流会を行い、より一層の協働を進め、ボランティア団体の活動を支援します。

◎バリアフリー読書支援サービスに関わるボランティア(音訳、点訳、さわる絵本製作ボランティア)の新規養成と技術向上のために、養成講座及びスキルアップ講座を継続して開催します。また、交流会や懇親会を行い、より一層の協働を進め、ボランティア団体の活動を支援します。

◎年度登録制の個人ボランティア図書館フレンズについては、継続して50名以上の登録を目指します。

◎図書館資源(施設・資料)を活用した地域との協働企画をすすめ、地域づくりに貢献します。

- ・「お話ボランティア養成講座」(6回開催、受講生7名、修了者5名)を開催しました。また現在活動中のボランティアのための「お話ボランティアスキルアップ講座」(2回開催)や、「ブックスタートのひろば」「おひぎで絵本」のボランティアのリーダー会(それぞれ隔月開催)及びボランティア交流会を各館で実施し、継続的にボランティア支援を行いました。
- ・音訳・点訳ボランティア養成講座として音訳3コース(27回開催で受講生16名)、点訳1コース(10回開催で受講生5名)を開催しました。
- ・図書館フレンズの令和5年度登録者は75名で、目標を達成できました。
- ・図書館施設活用については、千里丘図書館において市民作品展示コーナーを設置し、2か月交代で延べ12人の市民の作品を展示するほか、出品者を講師に迎えた講座を3回開催しました。また、江坂図書館において、市民の協力のもと、江坂アートさろん(旧名:江坂ロビーフェスタ)を8回開催しました。
- ・千里山・佐井寺図書館では、10月27日から11月9日の期間で、「千里山入居100周年記念・今昔展」の展示企画を、千里山まちづくり協議会との共催で開催しました。11月3日には関連イベントとして様々な企画を行い、会期を通じ多くの方に来場いただきました。

(指標)ボランティア総数			
令和3年度 (策定時)	令和5年度		評 価
	目 標	実 績	
580 人	養成講座定員分増 (3講座定員計40名 令和4年度実績:586人)	649 人	A

【図書館協議会の意見】

◎人口減少期において、市民協働は図書館活動の基盤となると思います。地域に根差した図書館にしていくためにも着実に継続を蓄積していくことを期待します。

◎ボランティア養成が目標を達成できたのは、評価できると思います。

◎ボランティアの人数が増加するなど市民との協働が順調に行われていると思われま。

◎図書館施設の利用について、千里丘図書館での市民作品展示コーナーは面白い企画だと思います。他の館でも取り入れを検討していただきたいです。

◎千里山・佐井寺図書館での「千里山入居100周年記念・今昔展」の展示はとても良かった。こういう感じのイベントをまた検討してください。

基本目標3 子育て支援や学校との連携を通して、子供の健やかな成長に役立つ図書館を目指します。

サービス方針8 児童サービス

【令和5年度目標の取組状況】

(目標)

- ◎ブックスタート事業については、絵本配付80%を目指し、保育所赤ちゃん会や離乳食講習会に参加し、事業の説明や絵本の配付を行うほか、新たにSNSを活用したPRを行います。
- ◎乳幼児期から本に親しむ環境をつくるために、「抱っこで絵本講座」を全図書館で実施し、地域の状況に応じて、各館1～2回開催します。
- ◎本や図書館に親しみを持つきっかけを作るため、おはなし会などの定例行事、「子どもと本のまつり」、季節ごとのおたのしみ会などを引き続き実施し、参加者増を目指します。
- ◎YA(12～18歳)世代の利用促進を図るため、電子書籍をPRします。また、YAサポーターなどYA世代自身が参加する取組を継続して行い、本や図書館に親しみを持つ働きかけを進めます。

- ・ブックスタート絵本の配付率は令和4年度の79.7%を少し上回り、79.8%になりました。
- ・配付率向上のために地域で行われる「出張赤ちゃん会」に参加するほか、市の親子健康応援アプリ「すいろぐ」を活用し、お知らせを配信しました。その他、講師派遣等においても、絵本の配付に取り組んでいます。
- ・赤ちゃん会へは全館で計20回訪問し、延べ330名の参加がありました。
- ・「抱っこで絵本講座」(連続2～3回講座)は全館で計44回開催し、延べ204名の参加がありました。
- ・おはなし会などの定例行事やおたのしみ会などは計2,267回開催し、延べ19,509名の参加がありました。
- ・YA世代向けには、YAサポーターを計25回開催し延べ75名が参加しました。また、YA世代向け冊子「てくてく」の編集作業に延べ29名が参加しました。電子書籍については、YA世代向けに特集を組み、としょかん福袋においておすすめセットを作成するなどPRに努めました。

(指標)行事参加者数(対象人口に対する目標割合)			
令和3年度 (策定時)	令和5年度		評価
	目標	実績	
16.2%	経年比増 (令和4年度実績:25.0%)	36.6%	A

【図書館協議会の意見】

- ◎量的にも質的にも、非常に充実した取り組みをなされているかと思います。
- ◎幼児から小学生の子供は図書館を利用したり、本を読む習慣をつけてもらいたいのでさらに取り組んでいただきたいです。
- ◎ブックスタートに関して、赤ちゃん会に参加するなどいろんな努力をされているのは心強いです。保健師との連携についても進めていってください。
- ◎「抱っこで絵本講座」は小さなお子さんを連れての参加になるので全図書館で実施されていることにとっても評価できます。終わってからもお子さんと一緒に絵本を見たり、一緒に参加された方とおしゃべりしたり、ほっとできる時間も含めて考えていただきたいです。
- ◎児童サービスの行事参加者数が目標値を上回って増えている点は評価できます。乳幼児対象の行事数に比べて、小中高校生世代対象のものが少ないように思うので、そちらも充実するとさらによいと考えます。

【令和5年度目標の取組み状況】

(目標)

◎市立小中学校との定期連絡便の利用促進に向けて、調べ学習や授業に役立つ図書のセットを作成するなど、より利用しやすい仕組を用意します。

◎教諭との交流や読書活動支援者への技術的サポートを引き続き実施するほか、図書館との連携の取組事例を提示し、活用促進を図ります。

◎図書館を身近に感じてもらえるように、学校の要望に応じて、図書館見学や学校訪問、図書館訪問を実施します。訪問が困難な場合は、動画等の提供などの工夫をします。

◎子供たちの読書のきっかけを作り、図書館の利用促進を図るため、新学期や夏休みなど学期に合わせて図書や図書館を紹介するリーフレットなどを作成し、市立小・中学生に提供します。

◎市立小・中学生の1人1台の学習用端末における「すいた電子図書館」の利用を増やすため、より気軽に読書を楽しめるコンテンツを増やすなどの取組をすすめます。

◎放課後の児童の読書活動を支援するため、留守家庭児童育成室への団体貸出を行います。

- ・市立小中学校との定期連絡便の利用促進のため、小学校の調べ学習で利用される教科に沿った資料を選定しました。
- ・図書館見学等については、動画の提供など新たな取組みには至りませんでした。学校の要望に応じて実施することができました。(図書館見学:29回 1,911人、学校訪問:9回 352人)
- ・図書や図書館を紹介する取組として、新学期には新1年生向けに「児童向け利用案内(おめでとう1ねんせい)」、夏休み前には市立小・中学校全児童・生徒に「もうよんだかな?ミニ版」、「てくてく ミニ版」を作成しました。
- ・学習用端末における「すいた電子図書館」の利用について、子供たちがより気軽に読書を楽しめるよう、子供たちに人気のコンテンツを増やしました。しかしながら、貸出数・閲覧数増にはつながらなかったため、次年度は、利用促進のためのPRが課題です。
- ・留守家庭児童育成室への団体貸出も継続して行いました。(全36育成室へ 27,270冊)

(指標)学校への団体貸出冊数			
令和3年度 (策定時)	令和5年度		評価
	目標	実績	
25,978 冊	経年比増 (令和4年度実績: 32,379 冊)	31,002 冊	B

【図書館協議会の意見】

◎学校への団体貸出冊数の経年比増が目標値になっているので届かなかったため評価はBになっています。新学期や夏休みなどの子供たちの来館利用数や学習用端末における「すいた電子図書館」の利用数もこれからの指標に入れてもいいのかと思います。

◎学校への団体貸出冊数については課題が残りましたが、「すいた電子図書館」の読み放題パックなど将来性のあるコンテンツや取組が多数あるので、今後に期待できます。

◎海外の文献ですが、学修における紙の読書の効用(集中した思考能力が向上する等)を示す研究結果がいくつか出てきています。電子媒体が優勢である一方、子供の学びにおいて紙の本や資料が果たす役割は一層重要になると思います。電子書籍も活用しつつ、紙の本の魅力を伝えられるようなサービス展開を期待します。学校の先生に対しての働きかけも重要だと思います。

◎定期連絡便のおかげで子供たちはさまざまな本を読む機会が増えています。特に、調べ学習の資料は子供の実態に合った資料も多く大変学習に役立っています。引き続きより使いやすい連絡便になるように努めてください。

◎教科書が新しくなるので、教科に沿った資料の選定や調べ学習資料セットの見直しがされているのは適切だと思います。

◎教諭との交流や読書活動支援者への技術的サポートはありがたく感じています。今後、例えば小・中学校の図書委員会・読書活動支援者と連携し、「図書室便り」の(中に紹介コーナーを設けてもらうなどの依頼したり、図書館への「もうよんだかな?ミニ版」等への生徒・児童の幅広い参加を促したりなども検討いただけたらと思います。

◎中学校の学校図書館の利用促進に向け、子ども読書活動支援センターとしてアドバイスする機会を設けたらどうでしょう。

◎図書館見学や学校訪問が復活しているのはよかったです。全館の取組になるといいですね。

◎図書館を身近に感じる取組としての動画の提供は、有効なものだと思いますので、作成し提供していただくことを希望します。また、ゲーム的に子ども達がアバターを作成し、図書館内を探検するなどのコンテンツの提供も一つの手段かと感じました。

◎学習用端末による「すいた電子図書館」の利用について、貸出数・閲覧数の増減の評価も大事ですが、紙の本の利用が難しい子どもたちにとって読書の可能性が開かれたこと大きな意味があると思います。もちろん、引き続きPRも行ってもらえればと思います。

◎学習用端末における「すいた電子図書館」の取組は児童・生徒が気軽に読書に親しめる取組として非常に有効なものだと思います。実際の貸し出し数や閲覧数増加へは、例えば、具体的に朝読書や昼休み等の時間への利用につなげるなどのPR活動も必要かと考えます。

◎「すいた電子図書館」については、引き続き利用促進のためのPRを続けていただければと思います。また、利用がある程度定着した後は、利用内容の分析等を行っていただくとよいかも知れません。

◎子ども読書活動支援センターでは、子ども文庫というボランティア団体への支援も手厚くして頂いています。他市と比べても、それぞれの文庫の特徴に合わせて要望など細やかに丁寧に対応して下さり、ボランティアとして「子供と本を結ぶ活動」をしている市民への支援が手厚いことも評価したいです。数値評価でしか明らかな判断が出来ないのかも知れませんが、この支援に対して評価 A にしたいです。

【令和5年度吹田市立図書館の運営について（講評）】

◎各館工夫された企画、サービス、ホームページでの検索や予約の取組について評価できます。時代の流れが速く、5年、10年先を考えることがとても難しくなっています。もう少し短期的に考えていく必要があると思います。

◎毎回、同じことを思います。評価とはこのように数字で目に見えているものだけで、客観的に分からないものなのかもしれませんが、もっとそこに至るまでの図書館の努力も評価できるといいと思います。でも、具体的にはどうすればいいかは、わかりません。

◎小・中学校では、学習用端末の利用が日常化し、児童・生徒の生活様式も大きく変化していく中で、図書館のあり方としては多様なコンテンツを用意し、児童・生徒の興味関心に沿ったPR活動がますます求められる時代になってきています。教職員にも、現在行われている図書館の取組が大きく変化し、多様なアプローチで子ども達を読書へ導く手立てが用意されていることをさらに周知されていかれたらと考えます。

◎近隣の自治体で図書館を取り巻く状況が厳しい中、吹田市の図書館行政はよくがんばっていると思います。身近に図書館がある優位性を活かすため、資料費を増額し、図書館の魅力が増すよう努めてください。

◎吹田市の司書率が高いことは誇りに思っていますが、参考業務チェックリストを作成したように、より専門性を高める努力を続けてください。「図書館の自由」など図書館運営の基本となることは、学び続けていってください。

◎市役所出張登録会や出前講座など、図書館の外に出ていき、直接市民に図書館の魅力を伝える事業を拡大していることが評価できると思います。

◎全体的に幅広く、充実した取り組みをなされているかと思います。多岐にわたる取り組みの継続には困難を伴うかと思いますが、今後のさらなる進展に期待しています。

◎多様な活動を実施されていて、着実に実績が上がっていると思います。反面、利用登録率が向上しない等、市民への波及効果という点で少し物足りない印象を持ちます。市民一人ひとり多様なニーズを持っていると想像されますが、現代人だからこそ図書館に求めるものがあると考えますので、今後のサービス展開に期待しています。

◎さまざまな角度から市民の利用促進に励んでいる様子がうかがえます。目標を達成する項目が多かったのがとても評価できると思うので、令和6年度以降も引き続き取組を続けてほしいと考えます。

◎思った以上に図書館ではいろいろな行事や、サービスなどに取り組んでいることがよくわかりました。スタッフの日ごろの業務進行に感謝します。

◎図書館の行事に手話通訳などほぼつけてくれているので聴覚障がい者には大変ありがたいです。聴覚障がい者は図書館へ自分で行くことは出来るし、自分で本を手取ることもできるが、あらゆる音声のある場面では壁にぶつかることが傍目では理解されにくいからです。